

栗原の田園地帯を走るくりでん



調査によって、栗原市はくりでん資料の保存と併せて、駅舎や車両も歴史遺産として活用する委員会を立ち上

創業から廃社まで86年間の経営資料は、日本資本主義の発展を支えながらも、戦後の社会変動に対応できず衰退する過程を浮き彫りにしています。鉄道史研究にとっては一般の資料群でした。

くりでん遺産の活用委員会

資料目録を作成したところ、全体で1万7千点にのぼりました。



東北大学災害科学国際研究所の所長などを経て、平成26〜31年度まで宮城学院女子大学学長を務めた。専門は日本近世史、歴史資料保全学。令和4年4月に、3代目のサン・ファン館館長に就任した。

2008年(平成20年)に設置された、くりでんミュージアムと、くりはら田園鉄道資産活用検討委員会(委員長は平川)では、この駅舎や車両、鉄道器材を残すのが主に検討されました。それらを保存し展示する施設の必要性も示され、ミュージアムと鉄道公園のあり方も検討されました。

2008年(平成20年)に設置された、くりでんミュージアムと、くりはら田園鉄道資産活用検討委員会(委員長は平川)では、この駅舎や車両、鉄道器材を残すのが主に検討されました。それらを保存し展示する施設の必要性も示され、ミュージアムと鉄道公園のあり方も検討されました。

2005年以降、若柳(栗原市)にあるくりでん本社に何度も通って、書棚や倉庫から書類を運び出し、写真撮影をして一点ごとに保存用封筒に入れる整理をしたのです。資料目録を作成したところ、全体で1万7千点にのぼりました。

2005年以降、若柳(栗原市)にあるくりでん本社に何度も通って、書棚や倉庫から書類を運び出し、写真撮影をして一点ごとに保存用封筒に入れる整理をしたのです。資料目録を作成したところ、全体で1万7千点にのぼりました。

くりでんの歴史を残す

資料ネット(理事長は平川)が精算団体と交渉し、これらの資料の整理を引き受けること

資料ネット(理事長は平川)が精算団体と交渉し、これらの資料の整理を引き受けること



くりでん動態保存乗車会のテープカット(旧若柳駅、2010年)

未来への航路

くりでんの廃線

日本の近代化は、鉄道敷設などのインフラ整備によって促進されました。この石巻もJR仙石線や石巻線・女川線が整備されましたが、その前史には地元民による私鉄の開業がありました。それを紹介する前に、歴史遺産として残された「くりはら田園鉄道」のことを書いておきます。

「くりはら田園鉄道」は、JR東北本線の石越駅から細倉マインパーク駅までの田園地帯を走るのどかな電車です。前身の栗原軌道は1921年(大正10年)に開業し、最終的には総延長25きになりました。沿線住民の足となっただけではなく、細倉鉱山から採掘された鉱物の貨物輸送

も担いました。しかし、戦後のモーターゼーションの進展によって徐々に乗客が減少し、1988年(昭和63年)には細倉鉱山が閉山となって主力の貨物輸送も途絶えました。1993年(平成5年)に、沿線自治体が運営する第三セクターとなりました。1965年(昭和40年)には18.3万人の乗客がありました。2003年(平成15年)には21万人にまで激減し、翌年に廃線が決定してしまいました。

資料ネット(理事長は平川)が精算団体と交渉し、これらの資料の整理を引き受けること

資料ネット(理事長は平川)が精算団体と交渉し、これらの資料の整理を引き受けること

資料ネット(理事長は平川)が精算団体と交渉し、これらの資料の整理を引き受けること

資料ネット(理事長は平川)が精算団体と交渉し、これらの資料の整理を引き受けること

資料ネット(理事長は平川)が精算団体と交渉し、これらの資料の整理を引き受けること